

学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

氏名	永澤 桂
学位の種類	博士(学術)
学位記番号	環情博甲第1999号
学位授与年月日	平成30年3月23日
学位授与の根拠	学位規則(昭和28年4月1日文部省令第9号)第4条第1項及び 横浜国立大学学位規則第5条第1項 (論博の場合は第2項)
学府・専攻名	環境情報学府 環境イノベーションマネジメント専攻
学位論文題目	ピエール・ボナールの自画像と「浴室の裸婦」の主題をめぐって： 1920年代以降の作品を中心に
論文審査委員	主査 横浜国立大学 教授 志田 基与師 横浜国立大学 教授 安藤 孝敏 横浜国立大学 准教授 長谷部 英一 横浜国立大学 教授 小野 康男 横浜国立大学 教授 樽沼 範久

論文及び審査結果の要旨

本論文は19世紀末から20世紀前半にフランスで活躍した「遅れてきた印象派」の画家ピエール・ボナールの「裸婦」と「自画像」とに関する論考である。

既存の研究では明らかではなかった「入浴する裸婦像」と「自画像」との主題上および造形上のかかわりについて、(1)19世紀末のフランスの社会状況の社会史的考察、とりわけアンチミテ(親密性)概念が両者の背景にあることを指摘、(2)また、両主題がもともとマラルメの詩『半獣神の午後』における半獣神(欲望をもって見る男性)とニンフ(対象となる女性)による、「肉体的欲望を芸術へと反転させる試み」の主題に発していることを資料および作品の変遷からあと付け、(3)この主題は当初は1900年作の《男と女》のように一つの画面内で構成されていたが、のちに同一の浴室内の「入浴する裸婦像」(ニンフ・モデル)と「自画像」(半獣神・ボナール自身)へと分離して描かれるようになり、このことはボナールが生涯を通じて『半獣神の午後』の主題に特別の思い入れをもったことにより裏付けている。

(4)フェミニズム批評以後の作品論からは当然検討されるべき、上記(1)(2)の関連について、ボナールがニンフであるモデルに対する半獣神としての画家の特権性を消し去ろうとした造形上の「分離」の様々な試みが指摘される：衝立で分割された画面、鏡に映る画像内画像による表現、画面の境界によって切断される肉体の表現などがそれであるが、それによっても画家の特権性は解消しきれずに「裸婦」と「自画像」とに分離した、と実証的な跡付けによって指摘、(5)その間の造形上の試みは、ボナール作品の特徴である、距離感と奥行きとを欠いた一様な装飾的な画面構成へとつながっていることを明らかにした。

平成30年2月5日15:30-17:00、総合研究棟S511において、論文審査委員全員の出席のもと、論文公聴会及び最終試験を行った。

ときに若干の論理の飛躍はあるものの、関連する膨大な絵画資料、伝記資料、歴史資料を読み込んで先行研究の空白部分を埋めたことは、この論文の大きな貢献であり、研究方法も堅実なものであった。また、最終試験における受け答えも的確なものであり、英語による学力の確認にも何ら問題がなく、博士(学術)の称号を授与する要件を満足するものと認められた。

注 論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。